

世界各国の食品表示

藤田技術士事務所 所長

藤田 哲

食品表示の目的と世界の概況

- FAO(食料農業機構)の示す食品表示の最大の目的は 消費者保護(選択の容易化)と 公正な売買の維持
- FAOは食品表示基準, コーデックス(食品法典)を制定
- コーデックス加盟183か国中、途上国は100以上、これらの基準は全加盟国に共通する基準である
- 世界主要国の表示基準はコーデックス基準を超えている。それらの方向は 親切的な栄養内容表示と、特徴的・主要原料の%表示である

世界各国の食品表示改革の趨勢

- 食品流通はグローバル化し、加工食品表示の国際的整合性が求められている。
- ① 分かりやすい栄養表示、各栄養成分量とその勧告一日摂取量中の%を示す。また、それらの図式化が進む。
アメリカ: 1994年に栄養表示教育法(NLEA)施行、「栄養の実態表: Nutrition Facts」。EUは近く統一栄養表示。
- ② 特徴的原料と重要原料を、水を含めて%表示する。
食肉類、魚介類、野菜、果物、ナッツ、乳製品、チョコレートなど。EUは2000年に定量的原材料表示義務化。
特に肉製品は全原料、肉量と水分を%表示する

大変大きな日本と世界各国との格差

- 日本はGDPは世界第3位だが、食品表示制度は多くの途上国にも劣る(5年後に栄養表示完全実施)
- 栄養表示義務化国: 米国、カナダ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、チリなど南米諸国。ウガンダ、セネガル、ケニアなどアフリカ諸国。インド、タイ、マレーシア、香港、中国、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、シンガポール、オーストラリア、NZ、EU27か国、スイス、トルコ、東欧諸国、中央アジア諸国。ほぼ全世界
- 重要・特徴的原材料%表示国: EU、トルコ、ロシア、ウクライナ、東欧諸国、南米5か国、タイ、マレーシア、ベトナム、韓国、オーストラリア、NZなど約50か国

食品企業の海外進出と食品表示

- 日本の食品企業はアジアを始め世界への事業展開
- FAOはコーデックス以外に、種々の表示ガイドラインを制定(海産漁業のエコ表示、公正貿易、熱帯雨林連合など)。海外企業はこれら表示を商品差別化に利用
- 日本企業も世界水準の追求を

日本の表示のマイナス因子

- 日本の加工食品表示は消費者保護よりも、いまだに生産者都合を考慮。消費者も詳細表示を望まない
- 狭いラベルに詳しい表示はできない→ 問題外
- 大きい文字で重要事項だけを表示→ 大きな過誤

講師プロフィール

藤田 哲（ふじた さとし）



略歴

- 1929 年 東京に生まれる
- 1953 年 東京大学農学部農芸化学科（旧制）卒業
- 1953－68 年 大日本製糖㈱勤務，パン酵母および蔗糖脂肪酸エステルの研究開発
- 1969－90 年 旭電化工業㈱勤務，各種乳化油脂食品，天然系界面活性剤，酵素生産・利用の研究開発
- 1988 年 技術士（農学部門・農芸化学），食品衛生管理士
- 1990 年 藤田技術士事務所開業
- 1991 年 農学博士(東京大学)
- 現在 食品化学，食品・農産製造分野の研究開発コンサルタント

著書

- 『食品の乳化－基礎と応用』（幸書房）
- 『及び 同改訂 2 版』
- 『食用油脂－その利用と油脂食品』（幸書房）
- 『これからの酪農と牛乳の栄養価』（幸書房）
- 『食品のうそと真正評価』
- 『新訂版食品のうそと真正評価』（エヌ・ティー・エス）

翻訳書

- 『コーヒーの生理学』（めいらくグループ）
- 『食品コロイド入門』（幸書房）

編著

- 『食品機能性の科学』（産業技術サービスセンター）
- 『新世紀の食品加工技術』（シー・エム・シー出版）

分担執筆

- 『乳化・分散プロセス』（サイエンスフォーラム）
- 『食品乳化剤と乳化技術』（工業技術会）
- 『新食感事典』（サイエンスフォーラム）
- 『食の安全 1』（エヌ・ティー・エス）
- 『食品表示の基礎用語』（幸書房）